

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(英語①) 教科担任名 小泉 国広

★教科・観点について
期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	1年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ▲課題を出し切れない生徒が相当数いる。	ペアワーク等の活動的なタスクを増やしたり、短い時間の活動を増やすことで、テンポよく授業を進め、授業に集中しやすい環境を設定する。	1年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ○発問に対する反応がよい。 ▲課題を出し切れない生徒が相当数いる。 ▲授業に出られない、遅刻してくる生徒が多い。	1年生も発問に対する反応が良くなってきているので、教員・生徒とのやり取りや、生徒同士のペアワークを多く取り入れた授業を行っていく。	
	2年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		2年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		
	3年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ▲音読の際に声が出ない生徒がいる。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		3年	○ペアワークに対して前向きに活動する。 ▲音読の際に声が出ない生徒がいる。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		
表現の能力	1年	○授業中の音読活動やスピーキングテストに前向きに取り組んでいる。 ○口頭での英問英答の活動に前向きに取り組んでいる。 ▲音読テストの練習に消極的。	短いスキットを暗記して発表させるなど、普段の授業からペアで発話する活動を増やしていく。また、単元が終了することに音読テストを行い、学期ごとにスピーキングテストを行うことで、表現活動に自信をもって取り組めるようにする。	1年	○授業中の音読活動やスピーキングテストに前向きに取り組んでいる。 ○口頭での英問英答の活動に前向きに取り組んでいる。 ▲音読ができる生徒とできない生徒の差が大きい。	基本的な文法事項や語彙は全体的に定着してきているので、まとまった英文を書く練習や、即興でテーマに沿った会話をする練習を行い、表現力の向上を図る。	
	2年	○授業中の音読活動やスピーキングテストに前向きに取り組んでいる。 ○口頭での英問英答の活動に前向きに取り組んでいる。 ▲音読テストの練習に消極的。		2年	○授業中の音読活動やスピーキングテストに前向きに取り組んでいる。 ○口頭での英問英答に文で答えることができる。 ▲音読テストの練習に消極的な生徒がいる。		
	3年	○ALTの授業や英問英答の活動に前向きに取り組んでいる。 ▲音読活動や英語での発表活動に抵抗がある。		3年	○ALTの授業や英問英答の活動に前向きに取り組んでいる。 ▲音読活動や英語での発表活動にまだ抵抗がある。		
理解の能力	1年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ▲短い文を覚えることが苦手である。 ▲文章の細かな内容を理解できない生徒がいる。	長文を読む機会を増やし、読む速度や理解力を高めていく。また、単元が終わるたびに長文の復習プリントを行い、内容理解を復習していく。また、普段の授業の中でも英問英答の活動を行い、耳から英語の情報を聞き取り理解する練習を行っていく。	1年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ○短い文を覚えることには全体的に慣れてきた。 ▲文章の細かな内容を理解できない生徒がいる。	長文読解に慣れさせるために、教科書以外の英文も用いながら、多読と読解を練習する場面を増やしていく。また、口頭の英問英答も引き続き行い、内容の理解度を確認していく。	
	2年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ▲文章の細かな内容や指示語を理解できない生徒がいる。		2年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ▲文章の細かな内容や指示語を理解できない生徒がいる。		
	3年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ▲短い文を覚えることが苦手である。 ▲長い文章を理解することが苦手な生徒が多い。		3年	○簡単な英文を読んで意味内容を大まかに理解することができる。 ▲文章の細かな内容を理解できない生徒がいる。 ▲100語程の文章も理解することが苦手な生徒が		
言語や文化についての 知識・理解	1年	○ヒントなどがあるれば、文法問題や単語学習に前向きに取り組むことができる。 ▲文法や語彙において生徒の定着度に差がある。	単元が終わるごとに文法内容や熟語などをプリントで復習し、既習内容の定着を図る。また、基礎学力向上週間を活用し既習内容の反復学習を行い、既習文法や語彙の定着を図る。	1年	○ヒントなどがあるれば、文法問題や単語学習に前向きに取り組むことができる。 ▲文法や語彙の定着度の差が大きくなっている。	基礎学力向上週間に英語コンテストを行い、集中的に並べ替え問題を解かせたが、最後までやり切った生徒とやりきれなかった生徒との間で、また基礎学力の差が広がっている。3学期も基本的な文法や語彙の復習を行っていく。	
	2年	○文法問題を反復練習することができる。 ▲文法や語彙において生徒の定着度に差がある。		2年	○基本的な文法や語彙は全体的に定着している。 ▲文法や語彙の定着度の差が大きくなっている。		
	3年	○ヒントなどがあるれば、文法問題や単語学習に前向きに取り組むことができる。 ▲文法や語彙において生徒の定着度に差がある。		3年	○ヒントなどがあるれば、文法問題や単語学習に前向きに取り組むことができる。 ▲文法や語彙において生徒の定着度に差がある。		
授業改善の検証方法	・授業観察 ・定期考査 ・音読テスト ・単語テスト(学級・個人) ・単元テスト ・グループ学習(協働学習) ・クラス学習(アクティブラーニング) ・リスニングテスト ・発表活動 ・ALTとの会話テスト			・授業観察 ・定期考査 ・音読テスト ・単語テスト(学級・個人) ・単元テスト ・グループ学習(協働学習) ・クラス学習(アクティブラーニング) ・リスニングテスト ・発表活動 ・ALTとの会話テスト			
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題		1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題		1年間の成果と今後の課題
英語の社会的・世界的有用性や、表現や活動を実生活に落とし込むことで将来への活用を感じさせる。	・ドリル学習(帯学習) ・ペア活動や、グループ活動を多く取り入れた授業実践 ・定期的な表現活動の実施(スピーチやスキット発表・音読テスト)		○3学年とも、定期的な音読テストやリーディングテストを実施することで、学習状況を把握し日々の指導に役立てることができた。 ▲長文問題の読解力に差が出始めているので、長い英文を読む機会を増やしていく。	・基礎学力向上週間における英語コンテスト ・教科書以外の追加の長文読解の実施		基礎学力向上週間に英語コンテストを行い、全学年とも基本的な文法事項や語彙の基礎学力が向上した。ただ、最後まで冊子をやり切れなかった生徒とやり切った生徒との間で学力差が広がっているため、3学期も基本的な文法や語彙の復習を行っていく。	